

令和元年度(第2回)総長賞表彰者一覧

	被推薦者・団体名	推薦対	推薦理由・受賞歴等
1	工学研究科電子工学専攻DC2回生 マエダ タクヤ 前田 拓也	学業	半導体の最重要物性の一つであるが測定が極めて困難とされる「衝突イオン化係数」を自らが提案・確立した手法によって実験的に高精度で決定することに世界で初めて成功し、GaNの絶縁破壊特性の理論限界を明確化した。「Applied Physics Letters」に注目論文として掲載され、International Electron Device Meeting(IEDM)に採択され、第一著者として口頭発表する等国際的に大きな注目を集めた。また、学会等で多数受賞している。
2	教育学研究科教育学専攻DC3回生 ヒラオカ ダイキ 平岡 大樹	学業	児童虐待のメカニズムについて心理学を基盤としながら人間の生体に関わる分子生物学や神経内分泌学を融合した学際的アプローチにより優れた知見を得てきた。その結果、「Psychoneuroendocrinology」誌に掲載された。また、養育行動研究における独自性・波及効果が評価された結果、「Parenting」誌に2本掲載された。これらを含めた研究成果は国際学術誌に6本掲載されている。学会の研究奨励賞も受賞している。
3	文学研究科行動文化学専攻DC2回生 イシカワ ミツヒコ 石川 光彦	学業	乳児における他者の視線知覚に関して、生理学的指標と視線行動の同時計測を用いた実証データを世界で初めて報告し、乳児の身体内部状態が視線追従行動を予測するという独自の理論を構築した。「Proceedings of the Royal Society B」に掲載され、国内外のメディアに広く取り上げられた。既に国際誌への査読論文7本、国際共同研究による共著査読論文2本を刊行。国際共同プロジェクト「Many babies1」に参加し国際賞も授与された。
4	生命科学研究科高次生命科学専攻DC2回生 ナガタ リナ 永田 理奈	学業	「細胞競合」と呼ばれる細胞間の相互作用を介した未知の細胞排除現象の分子メカニズムに関してこれまでの世界の常識を覆す極めて重要な発見をした。「Developmental Cell」に掲載され、メディアにも取り上げられた。また学会等で多数受賞している。
5	理学部3回生 ナカタ ユウキ 中田 裕貴	学業	第8回サイエンス・インカレのポスター発表部門で文部科学大臣表彰(最優秀賞)を受賞。発表内容は身の回りの道具のみで完結させた純粋数学である。
6	京大機械研究会 (代表)工学部物理工学科3回生 モリタ リョウヘイ 森田 瞭平	課外	NHK学生ロボコン2019～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～ 優勝、チェコ杯、NOK賞受賞 ABUアジア・太平洋ロボコン選考会ベスト8、ナガセ賞、ベストデザイン賞受賞
7	京都大学体育会ヨット部 (代表)工学部工業化学科3回生 フジタ ユタカ 藤田 裕	課外	令和元年度第84回全日本学生ヨット選手権大会 スナイプ級優勝、総合5位入賞 同大会での種目優勝は37年ぶり、総合入賞は26年ぶりの快挙
8	SHINOBI (代表)工学研究科機械理工学専攻DC2回生 タケモリ タツヤ 竹森 達也	課外	RoboCup世界大会2019レスキュー実機リーグ優勝 RoboCup JapanOpen2019レスキュー実機リーグ3連覇 2018年7月の西日本豪雨による岡山県半田山のがけ崩れ現場におけるレスキューロボットを用いた災害対応活動
9	京都大学体育会居合道部 (代表)法学部3回生 ゴドウ サトコ 工藤 紗都子	課外	第34回全日本学生居合道大会団体戦で優勝。 同部の活躍は雑誌「居合道虎の巻2018」の特集として取り上げられた。
10	農学部食料環境経済学科3回生 キタノ ヨシカツ 北野 嘉一	課外	関西学生野球連盟令和元年度秋季リーグにおいて、打率4割0分5厘で首位打者、ベストナインに選出された。 チームが、2000年秋以来、最下位から4位への大躍進、1982年以降の最多勝利数である春・秋計7勝への大きな原動力となった。
11	医学研究科医学専攻DC4回生 ニシカワ ヨシタカ 西川 佳孝	社会	東日本大震災後の被災地域において医師として診療と調査に取り組み、住民の健康、地域コミュニティを支援する活動を継続している。 活動の様子は複数のメディアにも取り上げられているが、救急搬送の研究を進め、救急体制の再構築に貢献するだけでなく、安定ヨウ素剤を服用していなかった事実の聞き取りを丁寧に行うなど、被災地区にて生活を続ける方々と本学を結ぶ活動を、一時だけでなく長きに渡って継続的に行い、人間を守る学術研究の成果を発信し続けている。